

No.80

境二丁目
にて

この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文・大須賀一雄

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



今回は、休耕中の畑で草を食むヤギを入れて描いたものである。ヤギを見ているうちに、ふと以前に聞いたヤギに関する話を思い出したので、紹介してみたいと思う。ヤギを11頭飼っている農家があった。ある日、その主人が病気になる息を引きとる際、枕元に3人の息子たちを呼び寄せ、次のように言った。「飼っているヤギを長男に2分の1、次男に3分の1、三男に12分の1に分け与えたい」と。息子たちは、遺言通りに分けようとしたが、無理なので困ってしまった。

そこで、3人は村の長老に相談したところ、彼は「どこからかヤギを1頭借りてきて、12頭に、それを分けたらどうか」と、提案した。3人は、早速隣村から1頭借りてきて、長男に6頭、次男に4頭、三男に1頭と分け、残った1頭を隣村に返し、めでたく難問を解決したという。

でも皆さんは、なんだか狐につままれたような気がしませんか。

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。